

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習 I-2		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
中西 康祐 他	C310	knakanishi	水曜日 5 時限		
授業の目的・概要	<p>作業療法演習 I-2 では作業療法演習 I-1 や入門実習で学んだ社会人スキル (コミュニケーション能力等) をもとに実技実習において行動化することを目標とする。 作業療法演習 I-1 で学んだ職業人スキルをさらに習熟し、実技実習において実行できる。 実技実習場面で検査・測定を経験し、自らの行動を振り返り課題を見つけることができる。</p>				
学習上の助言	<p>この授業では作業療法演習 I-1 や作業療法入門実習で学んだ知識が必要となるため、授業で配布されたプリント・教科書を復習しておくことが望ましい。</p>				
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 編：能登 真一、山口 昇、玉垣 努、他 / 医学書院				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業療法士として必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。			OT (1) (2) (3)	
②	基本的な検査測定が実施できる。			OT (2) (3)	
③	実技実習を経験することで、自らを振り返り課題を見つける。			OT (2) (3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション・課題説明	同時双方向型授業	課題内容の確認と準備	1	
2	MMT、ROM の評価測定の基本解説	同時双方向型授業	学習内容の基本事項の確認	1	
3	HDS-R、ISDA・SMSF の評価測定の基本解説	同時双方向型授業	学習内容の基本事項の確認	1	
4	喀痰吸引、リスク管理の基本解説	同時双方向型授業	学習内容の基本事項の確認	1	
5	<学内実技実習> ・1 グループ 5 名程、9 グループを想定して編成する。 5 回～13 回目の中で、グループごとに課題に取り組む。 ・各グループはその週の担当指導教員から提示された実技課題に取り組む。 <実技課題> ・MMT (主要筋) ・HDS-R ・喀痰吸引 ・ROM (主要関節) ・リスク管理 (介助・禁忌肢位) ・ISDA、SMSF	実技	その週の課題についての基本的事項の事前学習と、実習後の重要事項の再確認。	1	
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14	OSCE (客観的臨床能力試験) 1 回目	実技	実技実習および OSCE の復習	1	
15	OSCE (客観的臨床能力試験) 2 回目	実技	実技実習および OSCE の復習	1	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		90	0	0	10	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	10	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	14.15 回目に OSCE を実施する。一般課題・専門技能課題のチェック項目の総合得点で評価を行う。合格水準に達しない場合は再試験対象とする。				OSCE 試験後に試験担当教員がフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	ループリックに従って内容を評価する。期限までの提出がなければ、減点とする。				その都度実施する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>1～4 回目は Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。 大学構内での授業受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業の参加を認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあり得る。 また、グループごとの演習となるため、シラバスの変更および日程変更の可能性はある。その場合は、グループ担当の教員よりアナウンスする。</p> <p>担当教員：◎中西康祐、小沢健一、榎田哲弥、山鹿隆義、浅野克俊、海保享代、池谷政直</p> <p>教員の実務経験：各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有している。</p> <p>実践的授業の内容：臨床実践を行う演習・実習のため、各教員が臨床で培った経験を活かし、作業療法技術を学習する。</p>							